

幼保連携型認定こども園西神戸 YMCA 保育園 10月えんだより

「その人は豊かに実を結ぶ。」

(ヨハネによる福音書第15章1～17節)

今年は、酷い暑さだけではなく、雨や台風に悩まされますね。新型コロナウイルス感染症の変化だけでも、ご家庭やお仕事先でも配慮をされており、身体の健康だけでなく、心の健康にも気をつけなければなりません。子ども達の毎日は、例年より暑い秋ですが、外遊びも天候や体調に考慮しつつ身体運動の活動が活発になってきています。

さて、「わたしは ぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」これが10月の聖句の一節の言葉です。

コロナ禍での若者や大人、教職員等を対象にした日本赤十字社のアンケート調査をみますと、全ての方が、現状の生活に大きな不安や不満を抱いている調査結果がありました。感染症の情報が2年前とは異なり、症状や状況も可視化されてきたことも起因すると思われそうですが、アフターコロナの不可視化な将来が、気持ちを変化させるのかもしれない。医学者の養老孟司さんは、その著書の中で「イライラしている場合は、最近は不安や不満も自分の問題に戻さず、他者の責任にする傾向が強い。」と言われます。都市化され、近代化された社会は、殆どの物が、人間が作ったもので埋め尽くされて、何か不愉快なことが起これば、他人の責任だと考えがちになると言われます。又、合理的、論理的なものが重視され、「ああすればこうなる」という考え方が一般化すると、自分の思った通りに物事が進まない時、イライラするのだと言われます。人間が対自然の世界を無くしてしまい、人の関係に疲れ、対人世界が嫌な時には自然に逃げることや、勉強や運動が苦手でも、魚取りや虫取りが得意であったりした世界が、対人間世界が重視され自然に目を向けることが少ないと言われます。

聖句は、何を中心に頼って生きるかを示しています。毎日の生活で、何をどうすればいいかわからなく、路頭に迷う時、神様を信じて、神様がつくって下さった美しい自然の中で身を置き、又生かされている自分であることを忘れてはならないといひます。人間の世界ではどうすることもできない自然（気候や山海の自然も含めた世界）は私たちの人知を超えて存在しています。私たちは、枝であることを忘れて、自分自身が木であるかのように思い違いをしてしまうことがあります。自分で養分を吸い取り、豊かな実りを実らせようとして歩んでおり、自立している一本の木であるかのように考えてしまうのです。自らが枝であることを示されて、木である神様と結びつき、即ち、神様、イエス様のみ言葉により、真の実を結ぶ者とされるのです。み言葉を聴き、選別され、清められて歩み、自分の力だけで神様の前に立とうとするのではなく、謙虚になって、神様によって生かされていることを知りながら、与えられている命を歩んで行く所に、真の実りが生まれると言ひます。日々の歩みを、どんな状況であっても、み言葉に生かされた道を歩み続けたいと思ひます

年主題 「つながって」～今、わたしを生きる～

10月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	やってみよう	ふれあう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 季節の移り変わりを感じ、身近な自然と出会う * 体を動かす遊びを喜ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> * 神さまが与えてくださっている力を出し合い、共に取り組む * 疑問や気付いたことを調べたり、考えたりする * 友達と遊ぶ中で、いろいろな方法に挑戦し、失敗を重ねながら試す
讃美歌	どんどこどんどこ こども改 106	わたしたちのたべるもの こども改 102